



レンジフード 取付説明書

電動ダンパー仕様で補足説明書が同梱されている物は、
それに基づき電気工事をおこなってください。

取扱説明書・取付説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

安全上のご注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
 - ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切羽の程度を明示するため、誤った取り扱いをする生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
 - 警告**: 人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。
 - 注意**: 人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。
- お守りいただく内容の種類を次の総表示で区分し、説明しています。
- 総表示の例
 - 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合）は描かれています。
 - 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合）は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

警 告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと 発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと 火災などの原因になります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと 誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- アースを確実に取り付けること 故障・漏電のときに感電するおそれあります アースの取り付けは販売店にご相談ください
- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気に接触しないように取り付けること 漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること 漏電した場合、発火するおそれがあります
- 本体とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと 火災などの原因になります 詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと 漏電した場合、発火するおそれがあります

△ 注意

- 取り扱いの際は必ず厚手の手袋をすること 鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- ファンや部品の取り付けは確実におこなうこと 落下によりけがをするおそれがあります
- 交流 100 V 以外では使用しないこと 火災・感電の原因になります
- 自然排気型のストーブを使用するときは空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮をすること 排気ガスが室内に逆流し、一般化炭素中毒を起こすおそれがあります
- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと 落下によりけがをするおそれがあります
- 周囲温度が40°C以上になるところには取り付けないこと 火災・故障の原因になります

取り付け上のお願い

- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。
 - ・大工工事【設置のための下地工事等】
 - ・配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクター利用以外の配線接続等】
 - ・管工事【ダクト接続およびレンジフードからのダクト接続等】
 - ・流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
- ダクトの不燃処理について
 - ・ダクトを50mm以上の不燃材料、または20mm以上の国土交通大臣不燃認定の不燃材料で被覆してください。
 - ・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅にのりこむことを確認してください。調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出しても設置しないでください。排気効果が低下します。
- 外部排気の排気出口に取り付けられたバントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は400m³/h 時 50Pa 以下のものをご使用ください。防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 非常に狭いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいちじるしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- レンジフード取付面の補強部に、取付ねじが確実に届くことを確認してください。本体の取付ねじは45mmの長さのものが同梱されておりますが、壁下地に石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取付用ねじが確実に補強部に届くことを確認してください。また、レンジフード取付面には必ず不燃材を使用してください。
- 製品は調理機器の真上に取り付けてください。なお、製品取付高さは、製品の下端が調理機器の真上80cm以上になるようしてください。
- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けないでください。また、横方向50cm以上離して取り付けてください。湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。
- 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けてください。火災・故障の原因になります。
- 本体を構成してご使用は絶対におやめください。
- 部屋の中央で料理される場合は油煙が捕集されませんので、お台所の全体換気のために他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約400cm³程度の空気取入口を設けてください。
- 寒い地域ではダクトが結露し本体内に結露水が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてください。

警 告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと 発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること 漏電した場合、発火するおそれがあります
- 本体とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと 火災などの原因になります 詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと 漏電した場合、発火するおそれがあります

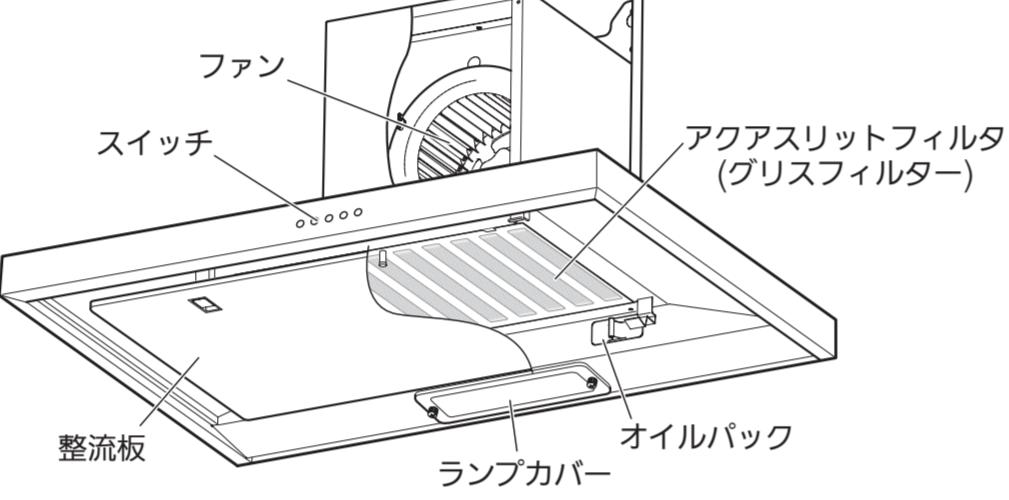
△ 注意

- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること 鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- 周囲温度が40°C以上になるところには取り付けないこと 火災・故障の原因になります

取り付け前の調査と準備

- 2 別売部品の準備 排気工事に応じた別売部品の準備が事前に必要です。
- 3 標準取付寸法 本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面から製品の下端まで80cm以上です。※火災予防条例では、グリスフィルターの下端が調理機器の真上80cm以上必要となっています。
- 4 電源コンセント・ブレーカー 電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流・単相100V）コンセントは、JIS C 8303 2 梯差接続器 15A 125Vをご使用ください。

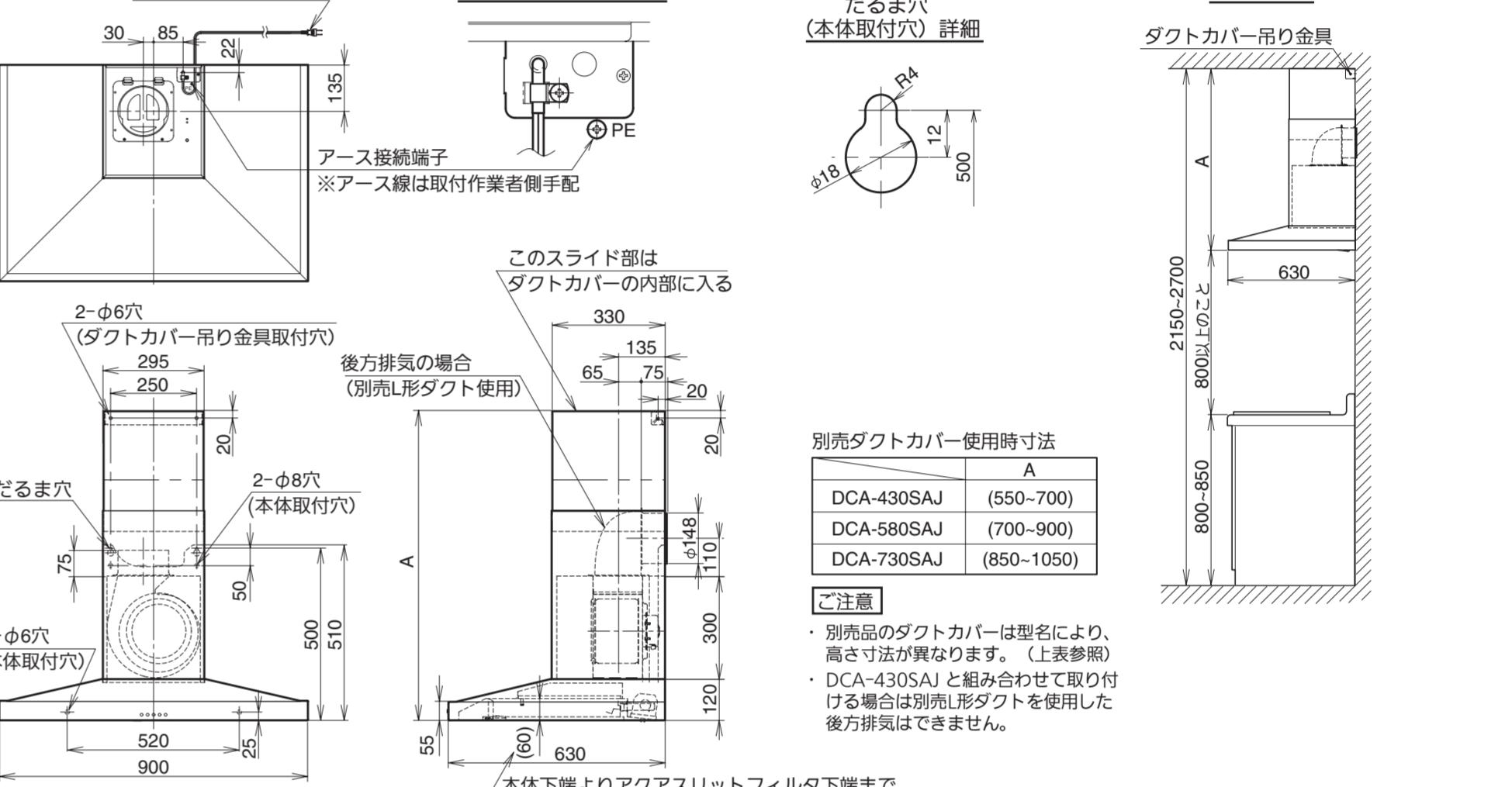
各部のなまえ



付 属 品

- 座付ねじ φ 5.1 × 45 (6本) 本体の取り付けに使用します。
- ソフトテープ (1本) 排気口とダクトとの隙間をふさぐのに使用します。
- 排気口 (1個) 本体とダクトの接続に使用します。逆風防止シャッター付きです。取付ねじは本体に取り付いています。

製品寸法図



1. 付属品の確認

△ 注意

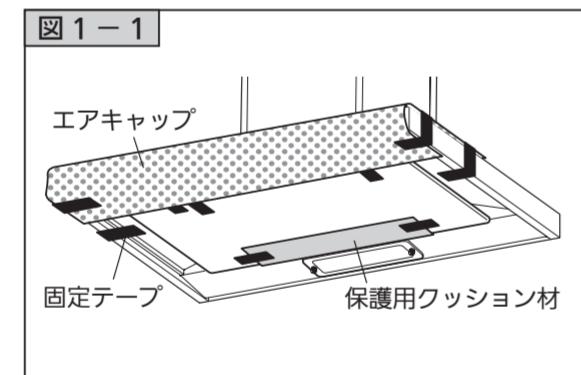
- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること 鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります



梱包箱から排気口、座付ねじ等の付属品を取り出し、上頂の付属品一覧により不足がないか確認します。

お願い

- ・保護用クッション材およびエアキャップは「4. 本体の取り付け」手順4においてあるまではさないようにください。（図1-1）。
- ・床で作業する場合、本体および床にキズを付けないために、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。
- ・取付作業の際はキズ、破損のないように十分ご注意ください。



2. 排気方向の決定

△ 警 告

- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気に接触しないように取り付けること 漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります

- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと 火災などの原因になります

- 本体とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと 火災などの原因になります 詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください

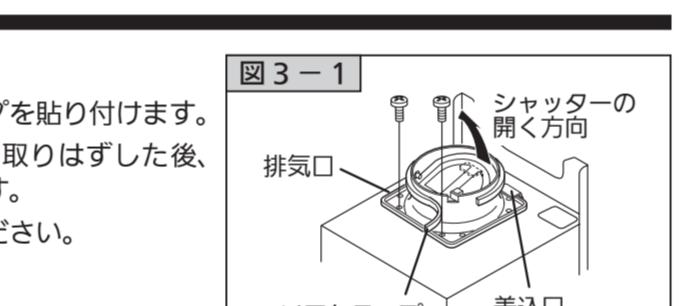
△ 注意

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと （浴室用換気扇をお使いください。） 感電および故障の原因になります

- 周囲温度が40°C以上になるところには取り付けないこと 火災・故障の原因になります

3. 排気用部品の準備

上方排気の場合（図3-1）



後方排気の場合（図3-2）

4. 整流板をはずします。

図4-4

5. オイルパックをはずします。

図4-5

6. アクアスリットフィルタをはずします。

図4-6

7. 仕切板を開いて本体を固定します。

図4-7

8. 仕切板を閉じ、取付ねじ2本で固定します。

お願い

- ・仕切板に取り付ける前に、右側の位置にあるコネクターハーネスは、はすれたりゆるんだりしていないか確認してください。ランプが点灯しないなど、動作不良の原因となります。（図4-8）
- ・仕切板を閉じる際、内部の配線を傷つけたのは、さんざりしないようご注意ください。

9. アクアスリットフィルタ・オイルパック・整流板を取り付けます。

お願い

各部品が確実に取り付けられたことを確認してください。

6. 電気配線

△ 警 告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと 発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- 交流 100 V 以外では使用しないこと 火災・感電の原因になります

4. 本体の取り付け

△ 注意

- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと 落下により、けがをするおそれがあります

1. 大まく穴用座付ねじをねじ込みます。

2. 座付ねじに本体のだるま穴を引っ掛けた後、しっかりと締め付けてください。（図4-2）

3. 座付ねじで本体を固定します。

4. 本体の取り付け

△ 注意

- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと 落下により、けがをするおそれがあります

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと （浴室用換気扇をお使いください。） 感電および故障の原因になります

- 周囲温度が40°C以上になるところには取り付けないこと 火災・故障の原因になります

5. ダクトと排気用部品の接続

お願い

- ドリリングタッピングねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじ込むないように配線を参照してドリリングタッピングねじで固定してください。（図5-1）

上方排気の場合（図5-2）

図5-2

後方排気の場合（図5-3）

図5-3

お願い

- 運転中は指や物を絶対に入れないことをけがをするおそれがあります

7. 試運転

△ 注意

- 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。スマートの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
- 各種の排気・各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認